

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	05780812610
法人名	有限会社 グループホームさんぼみち
事業所名	グループホームさんぼみち中仙
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1番地1 (電話) 0187-56-2286
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年10月22日

【情報提供票より】 (平成21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 6月 15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤2人, 非常勤 9人, 常勤換算 6.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	7名	男性	3名	女性	4名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.6歳	最低	61歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滑川医院 ながさか歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

米どころ中仙の田園が見渡せる場所に位置しており、2階建ての2階がホームの居住部分となっている。広々とした共有空間を有し、廊下を日常的に移動することで入居者の下肢機能維持に繋がっている。利用者は四季折々の田園風景を見ながら、かつて行っていた農作業や季節の食べ物等の話を職員と共にしながら穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で挙げられた改善項目は、同業者との交流、現状に即した介護計画の見直し、入浴支援等であった。それぞれの課題に取り組み、改善しようと努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組みの状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が個々に問題意識を持ち取組もうと努めた。意義や必要性の理解は共有出来ている。それぞれが挙げた課題について共有し、課題解決に向けた具体的な取り組みとなるように努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、介護保険事務所・地区協力員・利用者と家族・管理者等が参加し、2か月に1回開催されている。運営推進会議ではホームの現状や課題について報告している。参加者からは課題や意見が出されている。それらを活かしサービスの質の向上に繋げるように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や要望を受けて管理者・職員は検討しているが、すぐには解決できない案件もあり、対応については継続して取り組んでいる。日々のケアの中で出来ることは実施するよう努めており、不安が生じないよう家族への報告も工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事への参加を継続して行っており、徐々に地域との連携は出来ている。運営推進会議や防災訓練などへの参加要請も連携に功を奏している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分できることは出来るだけ自分でいき、地域の一員として自分らしく暮らし続ける」を理念とし職員は支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲げて、サービス提供に努めている。職員は出来ることは出来る限り自分で行うことについて、理念を共有し支援しているが、「地域の一員として自分らしく暮らし続ける」ことを、理念とどう繋げるかが職員によって多少の違いが見られる。		理念の「出来ることは自分で行う」については職員が共有し実践しているが、利用者が「地域の一員として、自分らしく暮らし続ける」にどう繋がればよいか、理念を再確認する場を設けて職員が同じ方向性を持って支援できるように、検討を重ねられる事を期待する。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる伝統行事や祭典には、見学参加を続けている。法人が開催する行事の際は、案内状を送る等、地域の人達の参加を呼びかけている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は自己評価の意義を理解している。自己評価や外部評価の意義や必要性を職員が理解するよう評価は職員全体で取り組み改善に努めた。		評価を活かした具体的な取り組みが、今後も継続して実施できるよう期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、家族、利用者、地域の代表、行政職員等の参加者に対してホームでの生活の状況や現状を報告している。会議での意見はきちんと記録され、職員に周知してサービスの向上に繋げるように努めているが、課題に向けて具体的な解決策が図られていない。	○	運営推進会議ではサービス向上に繋がる具体的な課題が提起されているので、一つ一つ解決を目指した取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは運営推進会議での課題等への取り組みや、対応が難しいサービス提供等その都度相談し、連携を図りながらサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料等の請求時に、担当職員が1か月の介護記録から利用者の生活概要を抜粋した介護経過を家族に同封して報告している。		将来的に、個人的な報告だけでなくホーム全体の取り組み状況等を各家族に理解してもらうためにもホーム便り等の定期発行を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入口に相談・苦情受付を明示している。面会の際には家族が意見や相談をしやすいように努めている。また、意見箱を設置し、多様な意見を頂く様に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急に職員異動が生じた時等は、法人内の他事業所からの支援を受けて利用者へのダメージを出来るだけ抑えようと努めている。	○	利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう、できるだけ運営者は職員や介護支援専門員等との意思疎通に努め、離職を最小限に抑える努力をされるよう希望する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講の機会は確保しているものの、段階に応じた職員育成計画は整備されていない。	○	個々の職員に応じた研修を計画的に実施し、職員育成を図られることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の一部事業者との交流を始めている。		県・地区のグループホーム連絡協議会に参加する等、更により多くの同業者との交流が日常的に行われ、サービスの質の向上に繋がることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでの情報を良く把握し、本人や家族の不安や希望を聴く機会を十分に設ける等、利用者とのコミュニケーションを図りながらサービスを開始するよう努めている。		今後も見学の受け入れや訪問等を通じて、早期に利用者との信頼関係づくりに努められることを期待する。
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が過去の暮らしぶりや、郷土料理などの共通した話題で、教えたり、教えられたりの関係が築かれ、和気あいあいとした雰囲気の中で生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向や希望の聴きとりをしている。また、聴きとれない場合は普段の生活の様子や生活歴等を踏まえて、本人本位の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直しの際は本人や家族の要望を考慮するとともに、担当職員等によるケース会議を開きそこでの意見を介護計画に反映させるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとの見直しを定期的に行っている他、見直し以前に変化や問題が生じた時は、随時介護計画を作成している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の事業所との交流を行っている他、利用者の心身や家族の要望に応じて、柔軟な支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の心身の状況に応じて、本人や家族の希望する医療機関への受診を支援している。日常的には近隣の医院から定期的に往診を受けている。		利用者個々の薬剤の情報が共有されにくい状況にある。薬の知識や情報が職員間で共有出来るような取り組みを希望する。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の意向を受けて対応しようと努めているが、重度化や終末期に向け統一された方針と具体的な準備は整備されていない。	○	統一した方針を立て、必要な手順書などを整えられるよう希望する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者への言葉かけや対応は適切に行われている。個人情報等の記録類は適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的には散歩や買い物、庭の手入れ等利用者個々の希望に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや旬の食材等も入れた献立で食事が楽しいものになるよう工夫している。他にも食材の買い出し、配膳や下膳などは利用者の能力に合わせて職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者の健康状態に合わせて、週2回定期的な入浴をしたり、必要に応じてシャワー浴等も実施している。		浴室・更衣室共に広い空間なので、冬期間の保温対策に留意されるよう希望する。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の能力に合わせて、ホーム内での役割があり、買い出し、庭の手入れ、散歩等を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、天気の良い日は利用者の希望に応じて、1日2回の散歩兼外出を支援している。敷地内の事業所への訪問も行う等交流と連携を深める事で、利用者の外出意欲を引き出し、ホームに引きこもらない様に努めている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵をかけない意義を理解し、居室や玄関など日中は鍵をかけないケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜の災害を想定した避難訓練を実施している。参加者間で課題を明確にし、記録に残しているが、明確化した課題に対しての取り組みが十分図られていない。	○	訓練実施後の課題には、早急に対策を講じられるよう希望する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等については、栄養士に相談をし、職員は昼食を共にして、利用者の食事の様子を観察しながら摂食状況の把握に努めている。また、一日の摂取量（食事量・水分量）は確認して記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、確保されている。採光も良く明るくすっきりした居間、廊下の作りである。また、季節に応じた装飾が行われ、利用者にとって居心地のいい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者や家族の意向と希望でしつらえられている。		

※ は、重点項目。